

今週のメニュー

[トピックス](#)

PVC News No. 72を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

[随想](#)

エレベータートーク（連載35）

金沢工業大学・(独)科学技術振興機構 上野 潔

[編集後記](#)

トピックス

PVC News No. 72を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

3月15日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.72](#)を発行しました。今号は特別寄稿として「化学物質管理」について掲載しました。化審法が平成22年4月から施行されるに伴い、その制度と施行スケジュール、関連する課題などについて、経済産業省の化学物質管理課の及川信一様にご寄稿いただきました。

「視点・有識者に聞く」のコーナーでは省エネ、環境建築のトップランナーである(株)エコエナジーラボの善養寺幸子様にご登場いただきました。

「リサイクルの現場から」はこの分野のトップランナーである太平洋セメント(株)藤原工場の廃棄物リサイクル事業を取り上げ、廃プラスチックのリサイクルについて語っていただきました。

No. 72の構成は以下の通りです。

特別寄稿

『化学物質の適正管理と平成21年化審法改正』

経済産業省 化学物質管理課 化学物質リスク分析官 及川 信一 氏

トップニュース

『塩ビリサイクル支援制度』採択案件の成果

視点・有識者に聞く

『エコハウス』から『エコ街づくり』へ

(株)エコエナジーラボ 代表取締役 善養寺 幸子 氏

リサイクルの現場から

『太平洋セメント(株)藤原工場の廃棄物リサイクル事業』

インフォメーション1

『塩ビ管の現状と展望』

塩化ビニル管・継手協会 専務理事 小西 四郎 氏

インフォメーション2

『下水道管が危ない！危機克服の切り札・塩ビ更正管の最新情報』

広報だより

『エコプロダクツ2009』に出展

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

特別寄稿では「化学物質の適正管理と平成21年化審法改正」について、日本の化学物質管理の法制度の特徴や今回新たに改正された化審法の改正ポイントなどについて詳しく解説いただきました。同時に、今までの毒性を中心にしたハザード評価から、そのばく露からヒトが取り込む量も評価したリスク評価を基礎とするように改められたことなどが分かりやすく説明されています。

トップニュースは『塩ビリサイクル支援制度採択案件の成果』として、VECが展開しているリサイクル支援制度のもとマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルなどの新技術で収穫が出ていることを紹介しています。採択案件5件のうち3件が開発を終了し、そのうちアールインバーサテック(株)と(株)クレハ環境の新しい技術のポイントやその広がりを取り上げました。



**アールインバーサテック(株)
システムの全景**

「視点・有識者に聞く」のコーナーでは『エコハウスからエコ街づくりへ』と題し、コンサルタント活動もされている環境建築設計家として著名な善養寺幸子様、エコハウスの設計から、地域全体で取り組むエコ街づくりや学校エコ改修と環境教育事業、断熱改修によるCO2削減効果について語っていただきました。



**(株)クレハ環境
パイロットプラント全景**

インフォメーションは塩ビパイプについて取り上げました。

その1では、現在の塩ビ管事業の状況と耐震管路に使用できるRRロング管と老朽管路の機能回復ができる更正工法が期待されることを塩化ビニル管・継手協会の小西専務理事に語っていただきました。

その2は「下水道管が危ない！危機克服の切り札・塩ビ更正管の最新情報」と題して老朽化した下水道管に起因して全国で多くの陥没事故を引き起こしている現状を紹介し、その下水道管の更新のために今注目を集めている地面を掘り起こさない非開削で更新する新たな工法をご紹介します。

是非ご覧下さい。

『PVCニュース』はJPECのホームページから、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

<http://www.pvc.or.jp/>

ご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

info@vec.gr.jp

エレベータートーク（連載35）

金沢工業大学・(独)科学技術振興機構 上野 潔

プレゼンテーション時間を厳守することの重要性は、アメリカで教えられました。NASA（アメリカ航空宇宙局）では、しばしばワークショップやシンポジウムが開かれています。多くの国、機関、会社に分割された膨大な宇宙ステーションのシステムをまとめるには、部門間の情報交換が最も重要なのです。各人の持ち時間は厳しく制限されています。「あなたが時間をオーバーすることは、他人の発言時間を奪うことなのです」と言われました。あるワークショップで講演者が制限時間をオーバーした時、その場で座長は発言の停止を命じました。

部門間のインターフェースを調整する技術調整会議も頻繁に開催されます。こちらは発言時間を封じて技術調整が出来なければ危険です。しかしここでも発言時間は決められています。また誤解を招きやすい表現や文書も修正を求められます。会議の時間よりも出席者が署名する会議の議事録を作成する時間のほうが長くなることも良くあります。ここでも座長の進行の手腕が問われるのです。

米国で「エレベータートーク」の訓練が流行りました。短時間で相手の心をつかむ話術のことでエレベーターの中で「後で時間を取るからその話をゆっくり聞かせて欲しい」と社長に言わせるのが目的です。今は外部の人がいる可能性があるので会社でも役所でもエレベーター内での会話は厳禁です。それに役員専用エレベーターも増えていますから社長に話しかける機会は益々少なくなっています。エレベーター内での会話は非現実的になりました。

しかしプレゼンテーションの重要性はますます高まっています。通常のビジネスでも成果報告会でも決められた時間で意見を主張できなければ、意味がありません。相手がその道の専門家である場合もあるし全くの門外漢のこともあります。3分間で、10分間で、30分間で同じ内容を相手に伝え、納得させ、同意してもらう訓練が必要です。3分間は意外に長いし、30分間相手を集中させることは意外に難しいことがわかります。

宇宙開発ではそのプロジェクトに直接関わりの無い専門家による「設計審査」が重要なイベントです。ひとつのプロジェクトを推進するだけでも大変なことですから、直接関わりの無い専門家を動員するにはよほど人材が豊富な会社や組織でないとそんな審査会は出来ません。そこでも重要なことは部外者に理解してもらえるプレゼンテーション技術です。この場合は素人相手ではありませんが当然時間制限があります。

大学や研究機関の成果も外部委員によって評価を受けるようになりました。ファンド機関への研究申請も事務局だけではなく外部評価委員が採否を審査するようになりました。利害関係がなくて視点の異なる外部の専門家から評価されないと研究テーマは採択されません。採択後も研究の途中経過が審査され、研究が中止させられることもある仕組みです。

ここでも外部の専門家に専門的内容を理解してもらうプレゼンテーション技術が重要です。難しい内容をレベルは落とさずにわかりやすく説明する能力が求められます。もちろ

ん審査員には事前に分厚い審査資料が配られるのですが「細かなことは資料をお読み下さい」では審査になりません。決められた時間内でパワーポイントを使用して要点をわかり易くしかも面白く説明できるかが重要です。

本当の専門家は、短時間の審査会でもびっくりするような鋭い質問をします。理由は意外に簡単です。講演者自身は膨大な情報と資料を持っているのですが、審査する側はプレゼンテーション内容とその場の配布資料しか見ないのです。不思議なことに十分吟味したはずの配布資料やプレゼンテーション内容に齟齬が入っているのです。審査員が細かな用語や数値を質問すると「あの人は大局的な見方が出来ない」などと陰口をいう人がいます。しかしプレゼンテーションの中の細かな用語や数値に関する質問に答えられないようでは、その他の全ての内容が心配になります。決して雄弁多弁でなくても良いのですが、その場で答えを考えたり内容に自信がないと声も小さくしどろもどろになるものです。

小林先生や利根川先生などノーベル賞受賞者の一般向け講演はなぜわかりやすく面白いのでしょうか？ 本当の専門家は、高度の内容をわかりやすく説明できるものなのだと思います。よくわかっていない人に限ってわかりきったことを難しく説明するのです。(了)

前回の「コンクリートから人へ」(連載34)は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/259/mag_259.pdf

編集後記

3月の半ばにもなると、寒い日は続かず、強い南風と共に暖かい日が廻ってきます。住宅地を歩いているとどこからとなく沈丁花の香りが漂ってきて、思わずその方向を振り返ってしまいます。春といえば、桜(ソメイヨシノ)のシーズンがやってきました。今年から気象庁では取りやめた開花予想ですが、テレビの天気番組では、民間の調査機関による開花予想が流れています。今年は、昨年より開花が早いようです。今週末以降、各地から開花の便りが届くことでしょう。今年はどんなところでどんな桜に出会えるのか楽しみです。
(HI)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp